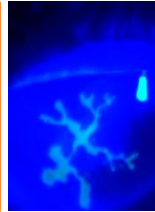




フジタガンカニューズ

Vol.134 2021.11.29



眼科とアトピー性皮膚炎のタダならぬ関係②

最近の新型コロナウイルス感染症患者の新規発症数は東京のみならず全国的に大幅な減少傾向となっており、飲食店での会食についてもかなり制限が緩和されてきていますね。ただし、ワクチン接種を先行していた海外では感染者数が再度増加している国もあるようです、引き続きの感染対策は重要だと思われます。さて、今月のフジタガンカニューズは先月に続いてアトピー性皮膚炎と眼科の関連に関する内容です。それでは引用の文章の続きをご覧ください。

アトピー性皮膚炎は、自然環境やストレスの多い生活変化に伴い、思春期以降に悪化するタイプが増加しているようです。

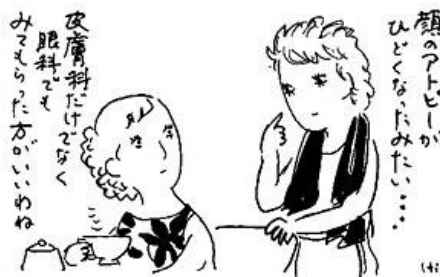
10～30歳台にみられるアトピー性皮膚炎の目の合併症には眼瞼や結膜のかゆみをおこすアレルギー性炎症だけでなく、白内障や網膜剥離など、重い視力障害につながるものがあります。顔面の皮膚炎の重症なタイプで、よく目をこすったり叩いたりする患者さんにみられることが多く、目の合併症は気づかずに進行していることもあります。皮膚炎の治療とともに症状がなくても眼科医による検査が必要です。



2.アトピー性皮膚炎の眼合併症とは

アトピー性皮膚炎にともなっておこる目の病気には、眼瞼皮膚炎、角結膜炎、円錐角膜、白内障、網膜剥離などがあります。アトピー性皮膚炎は、目のほとんどの部位に影響するのです。その中でも白内障や網膜剥離はたいへん重い視力障害につながる目の病気です。このような眼合併症をともなう患者さんは皮膚炎、特に顔の皮膚炎が重症な方に多くみられます。また年齢分布では、眼合併症のみられるアトピー性皮膚炎の患者さんは10～30歳台に比較的多く、思春期、成人になるまで皮膚炎が長引いたり、その時期に重症になったりするタイプには注意が必要です。

思春期以降に顔のアトピー性皮膚炎が悪化している患者さんは、自覚症状が少なくても、眼合併症があるかどうか眼科医にチェックしてもら



いましょう。

3.アトピー性眼瞼炎

目の周囲の皮膚に、赤いまだら、湿疹、むくみ、ただれ、かさつきなどのアトピー性皮膚炎の特徴的な症状がみられ、かゆみをともないます。症状が軽い場合は皮膚がかさついてけばだち赤いまだらになる程度ですが、ひどくなると眼瞼(上下のまぶた)の皮膚が固く厚くなります。 @@@@今月はこちらまで、続きは次月号をお楽しみに！

R3年度夏冬季休診日程

12/29～1/3

AM

×

PM

×

※ × … 休診

○ … 通常診療

今月のお知らせ



<http://www.fujita-ganka.com>

今年の年末年始の休診は上記のような日程となります。御迷惑をお掛け致しますが、ご理解をお願い致します。

FUJITA-EYE-CLINIC

藤田眼科

エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)

F-Vision

☎ 042 (645) 0575

☎ 042 (642) 2911